

銅像「開幕の刻（かいまくのとき）」

平成12年から附属病院2階正面玄関に、山田良定先生作「開幕の刻」が設置されている。

この像は、踊り子が念願叶って晴れの舞台のソデにて、極度に緊張しながら自分の出番に備え、幕が上がる瞬間を待っている表情を実によく表現している。最も「静」なるひとときが、開幕と同時に「動」となる。今、自分の夢が実現し、多少の不安を抱えながら緊張の一瞬の表情である。

作品の大きさについても、実物の1.5倍と大きくその迫力を感じさせる。

同作品は1998年第30回の日展出品作であり、同99年3月には同作品において芸術院賞を受賞した作品である。まさに50年に及ぶ山田先生の製作活動における集大成の作品であると言えよう。

学内にはこの他正門付近に「ジーンズの女」（1992年第24回日展出品作）、中央棟前庭母子像「ふれあい」、薬学部棟1階正面「秋・ふたり」（1994年第26回日展出品作 文部大臣賞受賞）が展示してある。

作者は滋賀大学教授、日展監事をつとめ、平成14年1月逝去（享年70歳）された。



開幕の刻



ジーンズの女



ふれあい



秋・ふたり

山田良定（やまだ りょうじょう）

1931－2002昭和後期-平成時代の彫刻家。

昭和6年10月5日生まれ。富永直樹に師事。昭和50,51年日展で特選となり,平成2年文部大臣賞。11年「開幕の刻」で芸術院賞。この間母校滋賀大の教授をつとめ,大津市公民館児童美術教室で指導した。日展理事。平成14年1月30日死去。70歳。滋賀県出身。本名は良定(よしさだ)。